



ろうさい病院つうしん

発行所: 中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6
<http://www.chubuh.johas.go.jp/>

TEL: 052-652-5511
FAX: 052-653-3533

インターネットによる 外来診察予約が始まります



平素から、医療連携を通じて先生方には当院の運営に一方ならぬご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

30年度の医療介護同時改定においても、病床機能に応じた病病・病診連携、在宅医療連携の推進がより重要となっており、当院の地域医療連携室でも、先生方からの診察・検査依頼への迅速な対応と受診報告、確実な逆紹介に努めております。

さて、平成28年11月よりCT、MRI等の放射線検査のWEB予約を実施しておりますが、平成30年6月から当院へ患者さんをご紹介いただく先生方の利便性を向上させるために、WEBによる「診察予約」を開始いたします。

☆WEB予約とは？

☞インターネットに接続できるパソコン(windows、MAC、スマートフォン等モバイル端末ならいずれも対応)とプリンターがあれば、簡単なお申込み手続きで24時間365日当院の診察や検査予約をとることができます。

☆WEB予約のメリットとは？

①先生方のお手元のパソコン、モバイルからその場で簡単に予約ができます。

これまでのFAX、電話でのご予約は、地域医療連携室がお受けできる時間に限られていましたが、WEB予約では、休日・深夜・平日19:30以降のいつでもご予約が可能です。

⇒24時間365日

②患者さんと受診日の調整が即時にできます。

先生方の端末で直接、予約の空き状況を確認して予約ができます。

⇒患者さんをお待たせしません。

⇒その場で、当院への受診案内が印刷されます。中部ろうさい病院の院内見取り図がついたご案内のため、当院が初めての患者さんでも安心してご紹介いただけます。

③受診の際にも患者さんをお待たせしません。

当院が初診の患者さんも、事前に登録をしておりますので、受診日は、必要書類の記入のみでスムーズに受付ができます。また、予約は時間指定となっておりますので、お待たせせずに診察へご案内いたします。

☆WEBによる診察予約が可能な診療科は？

☞以下の10診療科で診察予約が可能となります。

- | | |
|------------|-----------|
| ○循環器内科 | ○外科 |
| ○呼吸器内科 | ○呼吸器外科 |
| ○腎臓内科 | ○リウマチ膠原病科 |
| ○糖尿病・内分泌内科 | ○泌尿器科 |
| ○眼科 | ○形成外科 |

☆WEB予約の申し込み方法は？

地域医療連携室へまずはご連絡ください。申し込み書類をご用意して手続きをご案内いたします。ユーザーID・パスワードを発行したらずらにご利用になれます。

端末の設定等は、ご要望に応じて当院より訪問で設定いたします。

是非、ご活用ください！

C@RNA によるインターネット診察予約の運用イメージ

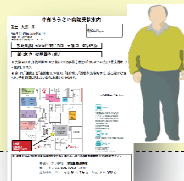
連携医療機関様

【ご予約】



C@RNA
によるご予約

- ① 中部ろうさい病院で詳しくしらべてもらいましょう
- ② C@RNAで即座に予約の空き状況を確認
- ③ 患者さんの受診希望日に応じて診察日を決定
- ④ 患者情報を入力
- ⑤ 中部ろうさい病院受診案内をお手元で印刷し、患者さまにお渡しします。



中部ろうさい病院

【予約】



☆ 地域医療連携室

- ① C@RNAで予約内容を確認
- ② 電子カルテへ予約情報を入力



【受診当日】

来院

☆ 医事課

- ◎ 窓口で受付（登録内容・保険証等を確認）



☆ 診療科

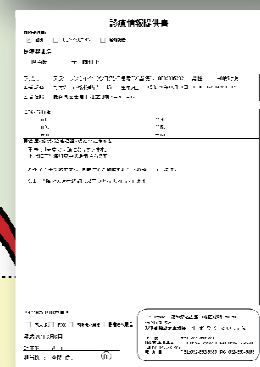
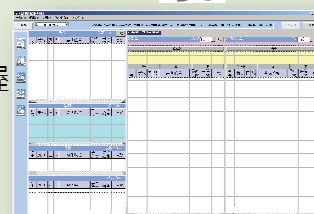
- ① 受付
 - 患者受付システムで来院を把握
予約時間に診察室へご案内

② 診察



③ 精算

- ④ 診察結果のご報告
（診療情報提供書）



連携医療機関様

【ご診察】

結果に基づく
フォローアップ

- ☆ 当院からの診療情報提供書をご確認の上、引き続き治療を継続



循環器内科部長就任のご挨拶

循環器内科部長 原田 憲



当院連携医の先生方には、平素より大変お世話になっております。前任の酒井慎一循環器内科部長が開業のため退職され、後任として平成30年1月1日付けで、循環器内科部長を拝命しました。

私は長崎市の出身で、平成9年に岐阜大学を卒業しました。卒業後は名古屋大学循環器内科に入局し、名古屋第二赤十字病院、江南厚生病院、浜松医療センターで研鑽を積んでまいりました。帰局後、中部ろうさい病院には平成21年4月に赴任し、虚血性心疾患のカテーテル治療を中心に循環器内科診療を担当させていただいております。

現在当科では、虚血性心疾患のカテーテル治療、不整脈に対するアブレーション治療、心臓リハビリを含む心不全治療を主として行っております。虚血性心疾患に関しては、心筋シンチやプレッシャーワイヤーで虚血の有無を評価する等、適切なPCI治療を心がけています。また最近では下肢血管のカテーテル治療も積極的に行っています。不整脈治療は心房細動や上室性頻拍などを中心に幅広い不整脈に対してアブレーション治療を行っています。

さらに、心不全患者の心臓リハビリにも力を入れており、医師、理学療法士、看護師、栄養士、薬剤師、検査技師などで構成した心リハチームが、心不全再入院予防のため診療にあたっております。心不全患者の管理でお困りの症例などございましたら、当院の心リハチームで検討いたしますので是非ご紹介下さい。この地域に限らず、高齢、独居の心不全患者は増加の一方です。これからは一人の患者さんを地域で管理していくことになると思います。先生方とのさらに密な連携を図りたいと思いますので、ご支援・ご指導等の程よろしく申し上げます。

現在当科は8名のスタッフで24時間体制の診療を行っています。今後もスタッフと共により良い医療を提供し、地域医療の一助となるべく努力していく所存です。

最後になりますが、先生方の益々のご発展をお祈りし、今後とも当院循環器内科へのご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

外科部長就任のご挨拶

外科部長 水谷 哲之



当院連携医の先生方には、平素より大変お世話になっております。私は平成24年10月に名古屋大学腫瘍外科より当院に赴任して参りましたが、このたび平成30年4月1日付で第三外科・消化器外科部長を拝命致しました。大学病院では主に肝胆膵領域を中心に研鑽を積んで参りましたが、当院では消化器疾患、乳腺疾患なども含め幅広く診療に従事しております。

近年、外科領域では腹腔鏡による低侵襲手術が更なる広がりを見せてきております。当院でも良性疾患では胆嚢炎、虫垂炎、鼠径ヘルニア、副腎腫瘍など、悪性疾患では胃癌、大腸癌に対して積極的に腹腔鏡下手術を施行しております。腹腔鏡下手術は、術後の疼痛が少ない、術後の回復が早く入院期間が短縮できる、など患者さんに大きなメリットをもたらしますが、その一方、腹腔鏡下手術による死亡例や、本来腹腔鏡下手術の適応ではない疾患への施行などが時折報道され問題となっております。当科ではそういった問題を肝に銘じ、安全、確実に病気を治すことを第一に考え、またガイドラインに則った術式選択（例えば胃癌であれば、現在はステージⅠまでが腹腔鏡下手術の推奨です）をしております。

また当科では最近、救急外来から外科にコンサルトされる症例が減ってきていることに寂しさを感じております。現在、我々はスタッフ6人で緊急対応しており、決して大所帯ではないのですが、緊急疾患の対応にはまだまだ余裕があります。虫垂炎、イレウス、消化管穿孔など、緊急手術が必要な疾患が疑われた場合はぜひ当院へご紹介いただければ幸いです。

最後になりますが、連携医の皆様のますますのご発展をお祈りし、今後とも当院外科へのご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。私の就任のご挨拶とさせていただきます。

ポリファーマシーへの対応

薬剤部長 伊藤 功治



多剤併用下において不適切な薬剤が処方され、それによって有害事象が生じている状態を「ポリファーマシー」と言い、薬物療法の適正化が必要となります。

高齢者では、複数の疾患や様々な訴えに対して薬の種類が多くなる傾向にあり、薬の代謝能や排泄能、水分量、感受性などの低下から薬の効果が過剰になりやすく、副作用を来たしやすくなります。高齢入院患者さんを対象とした薬の数と薬物有害事象との関係を解析した結果、6種類以上で薬物有害事象のリスクは増加するとの報告があります（図）。

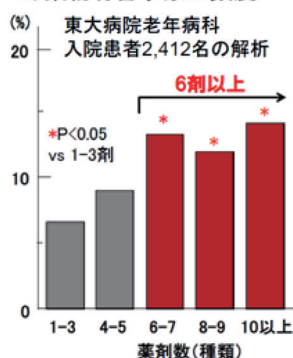
また、在宅の75歳以上の高齢者の残薬は約475億円/年とする日本薬剤師会の推計報告からも、医療経済的にも大きな負担になっています。このことから多剤投薬の患者さんの減薬を伴う指導の評価として、薬剤総合評価調整加算250点（入院前に6種類以上の内服薬（頓服薬、服用開始4週間以内の薬を除く）が処方されていた患者さんについて、処方内容を総合的に評価したうえで調整し、当該患者さんの退院時に処方する内服薬が2種類以上減少した場合）が算定できます。

中部ろうさい病院でも入院を良い機会と捉えて、薬剤師が中心的な役割を果たし、複数の薬剤が投与されている患者さんについて、薬の効果と副作用等を総合的に評価・検討し医師に情報提供（処方提案）を行っています。病状及び退院後の生活状況、服薬を忘れず正しく続けていただけるかを十分に考慮した上で、薬効の重複する薬剤の減少及び配合薬への変更等により、退院支援として処方薬を減らす取り組みを行っています。

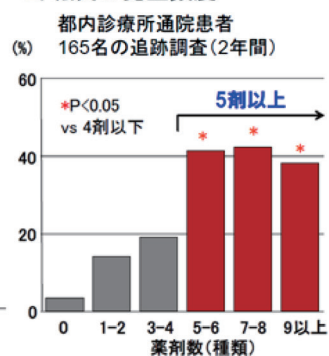
これには施設内の診療科間、職種間だけでなく、施設間、地域、保険薬局との連携が必要不可欠となりますので、ご理解とご協力をお願いします。

多剤処方と薬物有害事象および転倒の発生リスク

1) 薬物有害事象の頻度



2) 転倒の発生頻度



日本老年医学会:高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015より

地域医療連携室だより

○冬季病診連携セミナー、意見交換会を開催

去る2月3日(土)にローズコートホテルにおいて、平成29年度冬季病診連携セミナーを開催いたしました。演題は「当院における心房細動の治療の現状について」として循環器内科篠田宏典部長から主にカテーテルアブレーション治療を中心とした講演を行い、多数の連携医療機関の先生方にご出席いただきました。セミナー終了後、同時に開催いたしました病診連携システム運営協議会にご出席いただいた先生方と合流し、意見交換会を開催いたしました。日頃、お世話になっている連携医療機関の先生方と当院の医師及びスタッフとが直接顔を合わせ、盛況な意見交換となりました。

○平成29年度の紹介実績等について

昨年度の当院への紹介件数は、月平均で平成28年度比26件の増となりました。ご紹介いただきました連携医療機関の先生方に深く感謝申し上げます。ご紹介いただいた患者様につきましては、当院での医療が終了した後、紹介元の先生方へ逆紹介していくことを心がけ、円滑な地域完結型医療を目指します。今後も急性期を中心とした医療を提供し、連携医療機関の先生方のお役に立つ所存ですので、ご指導方よろしくお願い申し上げます。

医師交代

☆退職

(平成30年3月31日付け)

松平 哲史 脳神経外科部長
濱田 卓也 リウマチ科副部長
菅 もも 産婦人科副部長
渡部 さいこ 脳神経外科医師
和田 裕紀子 呼吸器内科医師
久賀 孝郎 呼吸器内科医師
上野 孝之 心療内科医師
舟久保 浩 循環器内科医師
大西 和広 循環器内科医師
多賀谷 知輝 腎臓内科医師
落合 聡史 整形外科医師

☆採用

(平成30年4月1日付け)

笠井 健広 整形外科医師
浅井 寛之 整形外科医師
杉野 貴之 整形外科医師
國領 和佳 リウマチ科医師
猪飼 弘樹 リウマチ科医師
新井 達也 リウマチ科医師
原田 一宏 循環器内科医師
関谷 敦史 産婦人科医師
水谷 栄介 産婦人科医師
溝口 麻子 糖尿病・内分泌科医師
久賀 えみか リハビリテーション科医師

江原 昌弥 心療内科医師
橋本 和明 心療内科医師
東 翔一郎 麻酔科医師

☆補職

(平成30年4月1日付け)

水谷 哲之 第3外科部長
鈴木 俊裕 外科副部長
長尾 知行 循環器内科副部長
木村 祐介 泌尿器科副部長
滝澤 直歩 リウマチ科副部長
(平成30年4月2日付け)
梅村 敏隆 脳神経外科部長

当院の理念

納得、安心、そして未来へ

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

☎地域医療連携室

(平日 8:15~19:30)

052-652-5950 (TEL)

052-652-5716 (FAX)

室 長: 坂口 憲史 (副院長)

連携課長: 藤田 実

事務担当: 峯垣 知広